

平成25年度第1回 栄養学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成25年10月21日（月）18：00～20：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：中川委員、原島委員、酒井委員、石崎委員、室伏委員
（事務局）井端事務局長、森下、松本

IV. 資料

資料① 平成25年度栄養学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画

資料②-1 栄養学教育における教育改善モデルについてアンケートの内容

資料②-2 栄養学教育における教育改善モデルについてアンケート集計結果

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査（平成25年8月中央教育審議会資料）

参考2 これからの大学教育等の在り方について（平成25年5月教育再生実行会議第三次提言資料）

参考3 教育振興基本計画（平成25年6月閣議決定資料）

参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）

参考5 誰でも無料ネット講義（新聞情報）

その他 平成25年度委員名簿、平成25年度公益社団法人私立大学情報教育協会事業計画書

V. 議事内容

1. 平成25年度の栄養学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画について

平成25年度は、能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるため、サイバーFD研究員の先生方へのアンケートを踏まえた見直しを2回の委員会で行う。その上で、平成26年度に向けた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた研究の意識合わせを行う。

2. 教育改善モデルのアンケートの検討について

資料②-1によりサイバーFD研究員の先生からいただいた9件の意見について内容を検討した。

3. アンケートの主な意見

（1）栄養学教育における学士力の考察の到達目標、到達度について

概ね妥当であるとの意見が多かった。

主な意見と検討内容（意見は①～⑩、検討内容は*で示す）

① 到達目標3解説「健康的な食物」を「健全な食物」にしてはどうか。

* 健全、健全でないに関係なく提案したが、汎用性のある表現に見直すことにした。

② 到達目標3解説「消費者の視点から」を「供給者と消費者の両方の視点から」にしてはどうか。

* 供給者も消費者の視点で考えるので、特に修正はしなかった。

③ 到達目標3到達度②「衛生管理対策に関する技術（HACCP）を身につけている」に関して、HACCPシステムは技術でなくマネジメントなので、身につけるところまで大学で修得するのは難しいので、「身につけている」を「理解し、その必要性を説明できる」にしてはどうか。

* 「身につけている」としたのは、「実践できる」という考えで提案したが、表現を見直すことにした。

④ 到達目標3到達度②「衛生管理対策に関する技術（HACCP）を身につけている」の測定法②は、実技試験では確認しづらいので、プレゼンテーションまたは論述式筆記試験で確認する方が妥当ではないか。

* 衛生管理対策に関する技術は事例の一つとしてHACCPを提案している。これは実践できるので、特に修正はしなかった。

- ⑤ 到達目標3到達度③「正しい食情報にアクセスして活用・発信できる」と記載されているが、食情報の真偽、情報の価値を判断できるということを入れるべきではないか。
- * 3章 学士力に求められる情報活用能力の考察 報教育のガイドラインで提案しているので、特に修正はしなかった。
- ⑥ 到達目標3到達度②「HACCPシステム」より「ISO22000（食品安全マネジメントシステム）」の方が適切ではないか。
- * 農学系ならISOにしてもよいと思うが栄養学はそこまで求めないので、特に修正はしなかった。
- ⑦ 学士力を活かすにあたり、少なくとも（1）栄養学と関係性の深い他職種に対する理解、（2）生活者の諸問題に配慮できる能力が必要であり、卒後、就職先においてはこの二点に対応できるか否かで、職業人としての資質を判断されると思うので、学士到達目標に何かしらの形で反映されることを期待します。
- * 栄養学分野として、到達目標1解説でも幅広く提案している。
学士力の考察「学際領域との協働活動」と提案しているが、もう少し職業に結び付けた表現に修正するか、再度検討することになった。
- ⑧ 食品産業と無関係な進路の学生に対する「軽めの栄養学」「生活指導のための栄養学」などの到達目標が必要ではないか。
- * 教養科目としては必要でしょうが、ここでは学士力を提案している。学士を授与するための到達目標として「軽め」はないので、特に修正はしなかった。
- ⑨ 到達目標1到達度④「食品の栄養成分」とあるが、食品の成分についても知識が必要ではないか。
- * 到達目標1到達度②、③、④で提案しているので、特に修正はしなかった。
- ⑩ 到達目標2到達度⑤「食育の意義について理解し、地域社会での取り組みを提案できる」とあるが、家庭や学校を強調すべきではないか。
- * 地域社会に家庭や学校も含めているので、特に修正はしなかった。
- ⑪ 到達目標2に関連して、食事バランスガイドの使用法とこれを用いた献立の考え方（主に献立の改善策）を身につけられるようにする必要がある。
- * 到達目標2到達度③「実践」方法の一つなので、特に修正はしなかった。

(2) 教育改善モデルについて

殆どが肯定的な意見であったが、モデル1「2. 3授業にICTを活用したシナリオ」「①テーマの事例として」について、「私たちに何ができるのか?」と記載されているが、さらに「私たちは何をすべきなのか?」という自問も含めてはどうかとの意見があったので、追記するか、再度検討することになった。

(3) 専門性、教育力、FD活動と課題について

殆どが概ね賛同の意見であった。

4. 社会の動きなどを踏まえた能動的学修等の動向の意識合わせについて

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査、参考2 これからの大学教育等の在り方について、参考3 教育振興基本計画、参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）、参考5 誰でも無料ネット講義（新聞情報）等を報告し、新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、国・社会から様々な提言が行われており、大学に改革行動が求められていることや、能動的な学びを実現する授業改善の取り組み、全学的な教学マネジメントの課題と対策、教員の教育力向上の課題、情報通信技術（ICT）を活用した授業改善への取り組みと課題等について意識合わせを行った。

昨年までの5年間に亘り研究を進めた「大学教育への提言」未知の時代を切り拓く教育とICT活用で提案した内容が学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査の結果や内閣府、中央教育審議会等の

方向と一致しており、このことを踏まえて平成26年度にむけた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた取り組みを研究することを確認した。

5. 次回の委員会

日時：メーリングリストにて調整

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室